

## 5 - 11 東海地方におけるラドン観測 (VII) Radon Observations in the Tokai District (VII)

東京大学 理学部  
Faculty of Science, The University of Tokyo

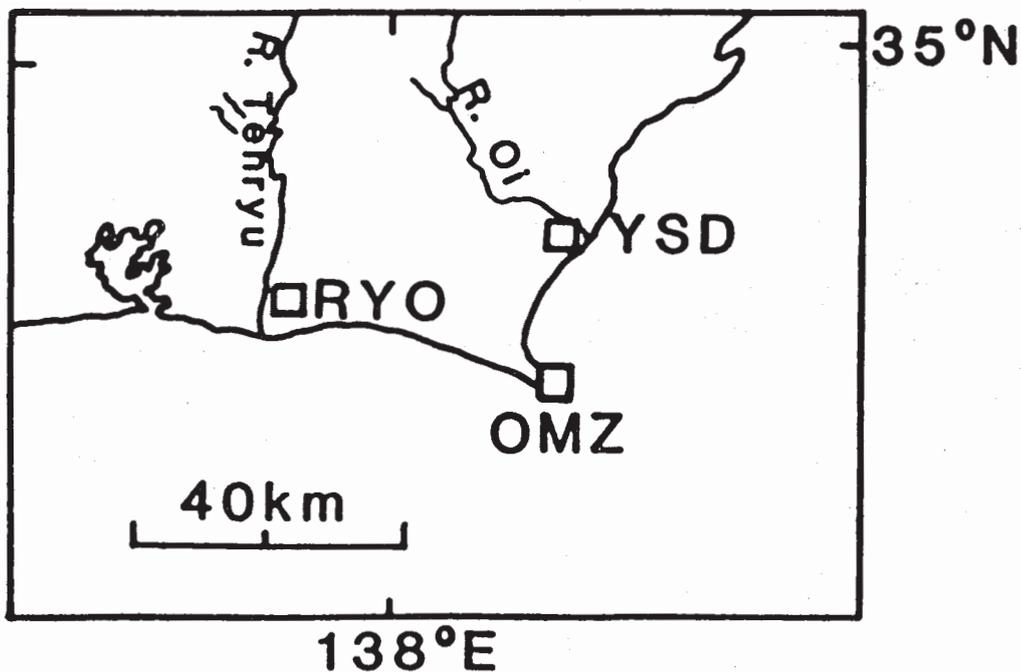
前報<sup>1)</sup>にひきつづき、東海地方における地下水中のラドン濃度の連続観測結果(1987年11月 - 1988年11月)を報告する。

観測点は、第1図に示す竜洋(RYO), 吉田(YSD), 御前崎(OMZ)の3地点である。第2図は各観測点における連続観測の記録で、1時間毎のラドン濃度(積算値)の24点移動平均値を、この期間の平均値に対する相対値で示したものである。

OMZは、夏高く冬低い年周変化を示すのが特徴である。去年は4月、6月、8月に3つの顕著なピークが認められたが<sup>1)</sup>、本年は8月終わりの一つのみであり、変動パターン、平均値とも一昨年とほぼ同じである。YSDでは昨年に引続き、年間を通じてラドン濃度が極めて一定である。RYOでは例年見られる1週間程度の短周期の変動が卓越している。これは人工揚水の影響と解釈される。

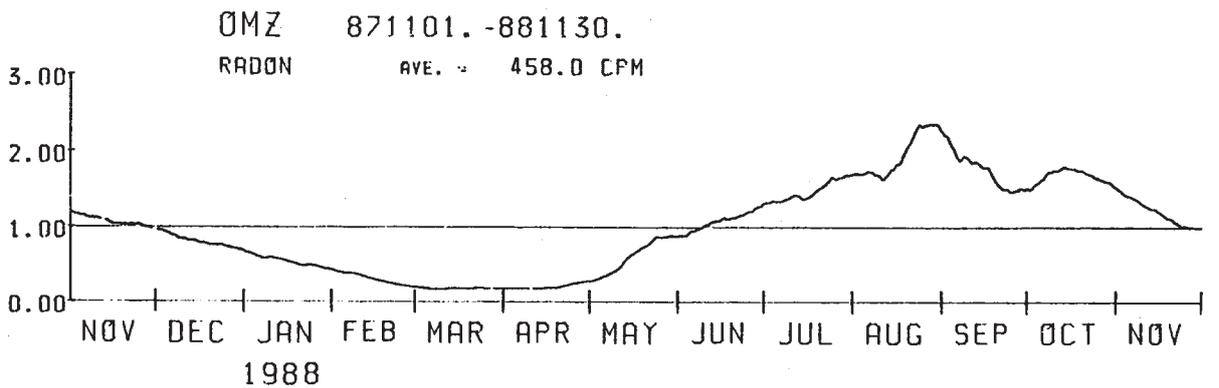
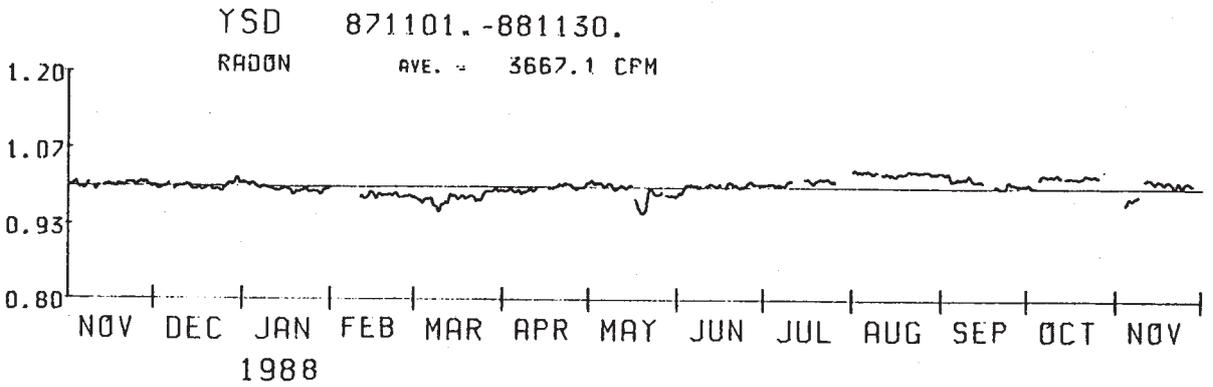
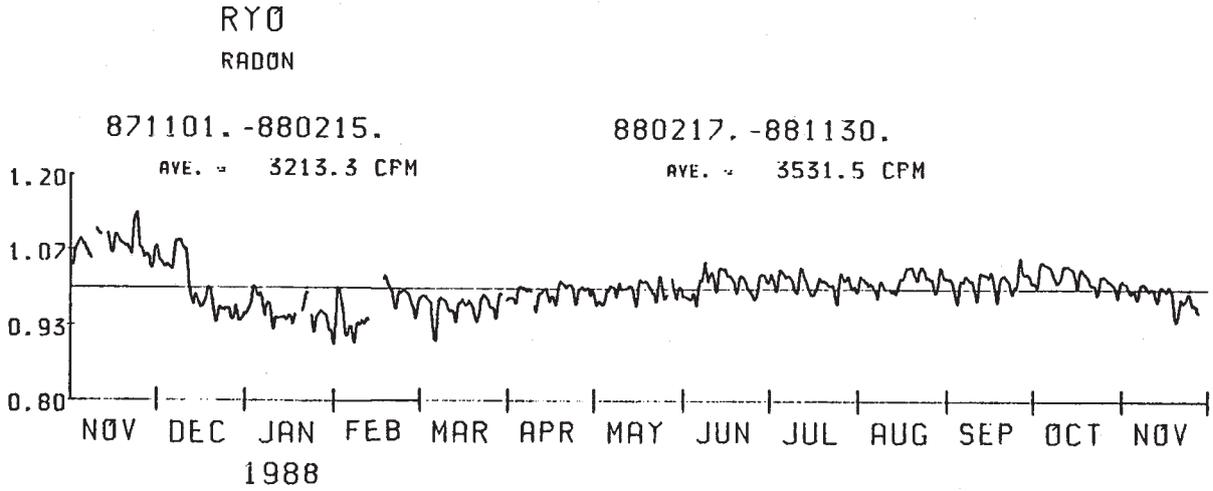
### 参 考 文 献

- 1) 東京大学理学部：東海地方におけるラドン観測(V1), 連絡会報, 39(1988), 268 - 269.



第1図 東海地方の地球化学観測点の位置

Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the Tokai district (RYO: Ryuyo, YSD: Yoshida and OMZ: Omaezaki).



第2図 RYO (竜洋), YSD (吉田), OMZ (御前崎) における地下水中のラドン濃度の変化 (1987年11月 - 1988年11月)

Fig. 2 Temporal variations in the radon concentration in groundwater at RYO (Ryuyo), YSD (Yoshida) and OMZ (Omaezaki) (November 1987 - November 1988).